

刊 行 の こ と ば

昨年、この教育年報の「刊行のことば」に、「SDGs」（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）や「ESD」（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）について寄稿しました。この１年間、テレビの報道番組や新聞・ネットニュースの記事で毎日のように取り上げられるようになりました。

今、小中学生が使っている教科書にも、SDGs を学習するページがあります。SDGs という国連で決めた 2030 年までの 17 の目標の達成に向けて、我が国においてもさまざまな取組がされています。

しかしながら、今の小中学生がしっかりとした大人になっている 2030 年まで、あと 7・8 年となりました。

17 の目標は達成できるのでしょうか？ 今、どこまで達成しているのでしょうか？ 世界の中で、日本の達成度はどうでしょうか？

昨年（2022 年）6 月、日本の SDGs 達成度は 163 国中 19 位という発表がありました。2017 年の 11 位から年々順位が下がっています。

私たちは、つい順位を気にしてしまいがちですが、本当に大事なものは内容です。

17 の目標の中で達成できているもの、また、その反対に達成できていないものは何でしょうか？ 「持続可能な開発レポート」を見てみますと、次の表のようになっています。

○ 目標達成と評価された項目	▲ 主要な課題と評価された項目
【目標 4】質の高い教育をみんなに 【目標 9】産業と技術革新の基盤をつくろう 【目標16】平和と公正をすべての人に	【目標 5】ジェンダー平等を実現しよう 【目標12】つくる責任 つかう責任 【目標13】気候変動に具体的な対策を 【目標14】海の豊かさを守ろう 【目標15】陸の豊かさを守ろう 【目標17】パートナーシップで目標を達成しよう

このように、3つの項目で目標達成と評価された一方で、6つの項目については主要な課題とされました。特に目立つのは、地球の自然環境の持続可能性に関する【目標 12～15】が主要な課題と位置付けられている点です。日本の世界有数の環境技術国という側面と、SDGs 達成度の評価に大きなギャップが生じています。

2030 年へ向けて全ての項目を達成するのは困難かもしれませんが、1つでも多くの目標を達成する、あるいは少しでも達成に近づけたために、小さくても良いので、今の自分にできることを考えて、具体的な計画を立ててみる必要があります。そして、その計画が本当に実現可能なのか、周りの人に聞いてみたり、時々振り返ってみたりすることが大切になります。そうしていくことで、一人ひとりの計画は実現可能なものになり、より良い未来をつくる大切な計画になると考えます。

昨年も述べましたが、「町ぐるみ和木学園」構想は、SDGs の理念や目標を参考にしています。教育施策の大きな柱の 1 つに「子は教師や親を敬い、感謝し、教師は子を讃え、親は教師を敬い、子を慈しむ」という『尊師親愛生』の精神を掲げており、「みんなが生徒 みんなが先生」を合い言葉にしています。あらゆる立場の人が行動を起こさなければ、何も達成できません。私たち一人ひとりの小さな行動は、「SDGs」や「Society 5.0」を実現するためにとっても重要なものであり、一人ひとりの多様な幸せであるとともに社会全体の幸せでもあるウェルビーイング（Well-being）の理念にもつながります。

「第 3 次和木町教育振興基本計画」の 2 年目の成果と課題を踏まえ、今後も和木町教育が持続可能な発展をしていくよう教育行政を推進してまいります。

本年報をご高覧いただき、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、刊行のごあいさつといたします。

令和 5 年 3 月

和木町教育委員会

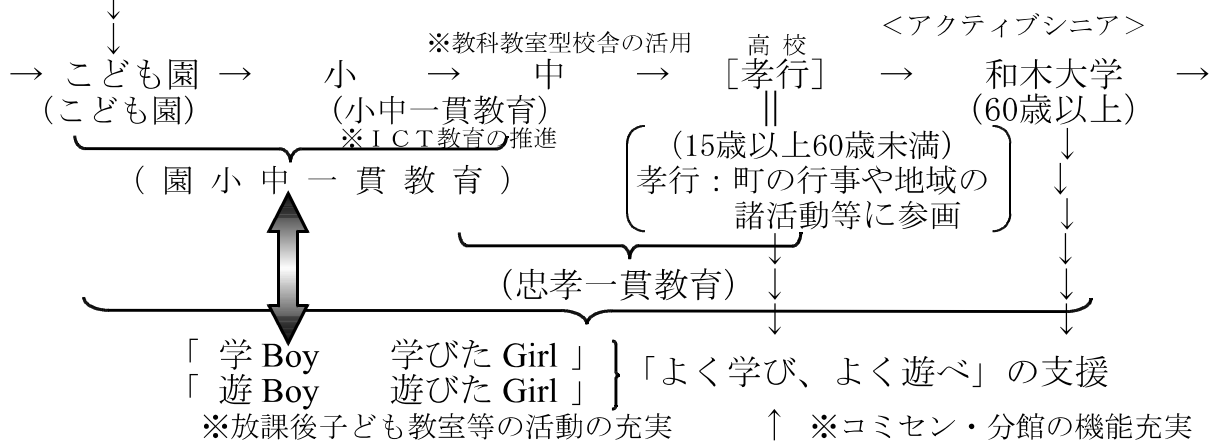
教育長 重 岡 良 典

「町ぐるみ『和木学園』」構想

緑の風薫る文化のまち和木町

子ども子育て支援のテーマ
「わきは あったか 大家族」・・・教育・文化のまちづくり

『和木学園』で生涯学習



「コンビ学習」

特に、日本最初のコンビナート（露：комбинат, kombinat 意味は「結合」）とコンビ（英：combi, kombi コンビネーションの略 意味は「組み合わせ」）を組んだ学習支援体制づくりを行う。 [和木町ならではの特色ある取組としたい]

※ 子どもから大人まで全町民の検定受検料を助成

↓ (特に、「もの忘れ」の防止)
健康寿命の延伸につなげたい。

↑ (特に、「老化は足から…」の防止)
※ 生涯スポーツ、健康づくりの推進

(総合型地域スポーツクラブ、体育協会、保相センター等との連携)

※ 国際教育 (ALTの活用、英語教育、日米交流事業 等)

※ 土曜日や放課後の学習環境づくり (学校支援 等)

・・・など

地域協育ネット
と連携

教育方針 { 「わきあいあい (アクティブ・ラーニング) で学ぶ」 学校教育の推進
「緑の風薫る文化のまち和木町」を支える生涯学習環境の整備
「尊師親愛生」の教育風土の醸成

「我以外、皆我師也」

文豪 吉川 英治さんが好んで使っておられたこの有名な言葉は、人が人らしく生きていこうとするところに、教育の営みが成立するという考え方である。

隣の家のおじさんも、百歳を超したおばあちゃんも、その生きる姿を通して教育を行っている。庭にはえている草も、道にころがっている石も、みんな教材になる。

和木町には、山がある。川も海もある。山青く水清らかな豊かな自然と最先端の技術をもつ化学工場も、みんな教材であり、私たちの師である。

学校とか家庭・地域という垣根を越えて、町全体で、みんなが互いに学び合うという町づくりを目指したい。

目 次

刊行のことば

◆ 令和4年度和木町教育方針	1
----------------	---

I 学校教育

1 本年度のあゆみ	17
2 園小中連携	25
3 ICT研修	27
4 和木こども園	29
5 和木小学校	39
6 和木中学校	51
7 給食センター	65

II 社会教育

1 本年度のあゆみ	69
2 文化会館	84
3 総合コミュニティセンター	90
4 図書館	103
5 体育センター	109
6 美術館	118

◆ 教育委員会関係資料	124
-------------	-----

◆ 教育委員会関係者名簿	
--------------	--